

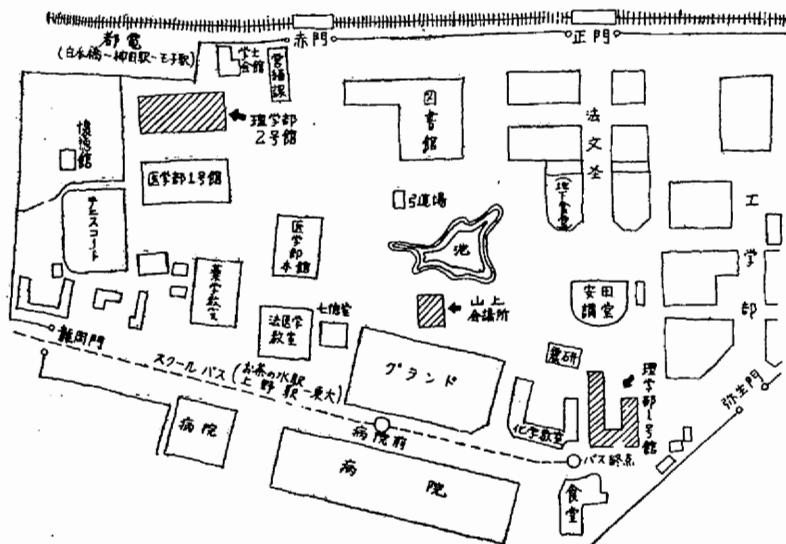
日本天文学会1956年春季年会 プログラム

◇日時 5月1日(火), 2日(水), 3日(祭)

◇場所 東京大学(本郷)および国立科学博物館(上野)

	午 前 (9時より)	午 後 (1時半より)	夜 (5時より)
1 日	研究発表 (理学部2号館)	研究発表 (理学部2号館)	懇親会 (山上会議所)
2 日	研究発表及総会 (理学部2号館)	研究発表 (理学部2号館)	シンポジウム (理学部1号館*)
3 日		公開講演 (科学博物館)	

- * 位置天文学シンポジウム 1号館 110号室
天体物理学シンポジウム 1号館 174号室



第 1 日 5 月 1 日 (火) 午前 9 時より

[午前の部]

分

1. 飯島重孝, 岡崎清市, 加藤亀三郎 (東京天文台): UT 2 系による水晶時計の長期運行成績 7
2. 飯島重孝, 渋谷五郎 (#): ハワイ, 三鷹間伝播時間の実測結果 7
3. 飯島重孝, 加藤義名, 加藤正 (#): JJC 報時信号の安定度改善 7
4. 宮地政司 (東京天文台): 天文時と原子時計との比較 (II) 5
5. 畑 源一郎 (東大理): 木星第 9 衛星の運動 (I) —中間軌道について— 7
6. 古在由秀 (東京天文台): 土星の環の衛星に及ぼす影響について 5
7. 一柳寿一, 高田勝夫 (東大理, 函南高校): 松隈健彦先生の「周期軌道に関する研究」について 10
8. 宮原 宣 (水路部): 三体問題における二体の衝突 10
9. 高木重次 (緯度観測所): 弾性体地球の回転運動 (II) 7
10. 高瀬文志郎 (東京天文台): アンドロメダ星雲の質量分布 7
11. 宮地政司 (#): 天文常数系についての考察 10

[午後の部]

12. 伊藤精二, 畑 隆一: 日本天文研究会員による 1955 年の掩蔽観測 7
13. 村上忠敬 (広島大): 流星輻射点の天球分布の均一性について 7
14. 森久保 茂: 流星塵の定量測定法とその結果 10
15. 中野三郎 (東京天文台): 月の子午線観測 5
16. 安田春雄, 原 寿男 (#): 水沢 PZT 用恒星の位置観測 5
17. 藤波重次, 磯田良一, 山崎恭弘 (京大理): 月食の半影の識別限界に関するカラー写真観測 10
18. 坪川家恒, 檀原 毅, 瀬戸孝夫 (地理調査所): ナイフエッジ式光電子午儀とその精度 10
19. 植前繁美 (緯度観測所): タルコットレベルの研究 (I) 5
20. 弓 滋, 阿部 茂 (#): 天頂儀の撓みとコリメーションエラー 7
21. 須川 力 (緯度観測所): 極変化の動径と方位及び月の影響 7
22. 服部忠彦 (#): 浮游天頂儀に及ぼす土地震動の影響 7

[夜の部]

懇 親 会

第 2 日 5 月 2 日 (水) 午前 9 時より

[午前の部]

- | | |
|--|----|
| 23. 北村正利, 中村 強 (東京天文台): 東京天文台における地球大気の減光 | 7 |
| 24. 野附誠夫, 斉藤国治, 西 恵三 (#): ロケット用分光器の試作 I 型について | 10 |
| 25. 小野 実, 宮沢正英 (東京天文台): 最近の太陽彩層爆発現象について | 5 |
| 26. 末元善三郎, 海野和三郎, 河鱈公昭 (#): 本年 2 月 23 日の太陽面爆発について | 5 |
| 27. 村上忠敬, 荒木宏司 (広島大): 黒点の標準曲線について | 7 |
| 28. 山崎恭弘, 石塚 陸 (京大生駒山太陽観測所): K 線による太陽面爆発のエネルギー測定値とインポートランスとの対応 | 7 |
| 29. 高橋 敏, 堀井政三 (#): 太陽面爆発の H α 線の拡がりについて | 7 |
| 30. 富田義雄 (京大理): 光球表面におけるナトリウムの電離度について | 5 |
| 31. 守山史生 (東京天文台): 67.5 Mc 干渉計による観測 | 5 |
| 32. 柿沼隆清 (名大空電研): 4000 Mc, 8 素子干渉計による黒点観測結果 | 10 |
| 33. 柿沼正二, 田寺木一, 豊田耕一 (京大理): 電波星としての白鳥座ループについて | 5 |
| 34. 宮本正太郎 (京大理): 宇宙塵の電波放出能について | 7 |

総会および本田実氏に対する天体発見賞贈呈

[午後の部]

- | | |
|--|----|
| 35. 上杉 明 (京大理): O 型星のモデル大気について (I) | 5 |
| 36. 斉藤澄三郎 (#): B 型星のモデル大気について | 10 |
| 37. 大沢清輝 (東京天文台): A α 星の平均絶対等級 | 10 |
| 38. # (#): A 型特異星の色 | 5 |
| 39. 山下泰正 (東大理): μ Cep の分光測光学的研究 | 10 |
| 40. 藤田良雄 (#): V Aql のグーデスペクトルについて (II) | 10 |
| 41. 上野季夫 (京大理): 拡散輻射場における散乱演算子について | 7 |
| 42. 稲場文男 (東北大理): 星の流体磁氣的振動とトロイド磁場 | 10 |
| 43. 海野和三郎 (東大理): ゼーマン効果のある吸収線の生成 | 7 |
| 44. 服部 昭, 矢田文太 (京大理): 宇宙雲の輝線スペクトル (I) | 5 |
| 45. #, # (#): 惑星状星雲のハッブル図表 | 5 |
| 46. 高窪啓彌 (東北大理): 星間カルシウム K 線の強度について | 7 |
| 47. 成相秀一 (広島大理論物理研): 擬似非圧縮性流体の乱流 (II) | 10 |
| 48. 上西啓祐 (熊本大理): 重粒子による圧力を考慮に入れた部分縮退等温ガ
ス球の内部構造 | 10 |

◇位置天文学シンポジウム

中野三郎, 安田春雄 (東京天文台): 歳差常数について

◇天体物理学シンポジウム

小尾信彌 (東大教養学部): ある種の星の核反応と構造

第 3 日 5 月 3 日 (木) 午後時 1 半より

公開講演 (科学博物館と共催)

◇高速度の星.....大沢清輝

◇ほうき星のはなし.....広瀬秀雄

本会天体発見賞と本田実氏の受賞

日本天文学会の天体発見賞は、彗星、新星の新発見者を顕彰する目的で 1936 年 (昭和 11 年) に制定された。本会からの賞牌のほか、特志家の寄附による賞金が副賞として贈呈されることになっている。

今回は 1955 年 7 月 29 日未明、本田実氏がエリダヌス座北端に新彗星を発見したのに対して贈られる。この彗星は、他に独立に発見した人ではなく、本田彗星 (1955 g) として登録されることになった。

本田氏は周知のように、この方面のヴェテランで、今回ののは、氏の新発見彗星の第 4 番目である。なおこのほか、最初ではないが独立に発見した 3 個の彗星がある。(くわしくは天文月報第 48 巻 146 頁—1955 年 9 月号の記事を参照のこと。)

東京大学

- ◇国電お茶の水駅または上野駅より東大構内行スクールバスで病院前又は終点下車。
- ◇お茶の水駅より志村橋行または荒川土手行バスで赤門前または正門前
- ◇都電日本橋—神田駅—王子駅線で赤門前または正門前。
- ◇〃 麩橋—御徒町駅—早稲田線又は錦糸堀—御徒町駅—大塚駅線で春木町。
- ◇地下鉄丸の内線で本郷三丁目。

科学博物館

国電上野駅公園口より下車、線路ぞいに北へ約 2 丁。なお表玄関から入ると料金がいりますから、事務館入口 (学士院側) からお入り下さい。